

明海大学 不動産学部

# 不動産の不思議

学生たちの視点と発見

第200回

## 【学生の目】

様々な形式の住宅が立ち並び戸建て住宅街で写真の建物に目を引かれた。周辺にある住宅と比べて「かわいらしさ」が目立つ。

横に長い庇(ひさし)の水平線が特徴的な

日本の伝統的の家屋(佐藤寿哉「不動産の不思議第102号」15年9月29日号)とは対比的に、縦に伸びる垂直線が強調されている。また窓に庇がない点や仕上げ材の様子は最近では一般的(森田愛理「不動産の不思議第93号」15年7月21日号)なものだが、まとまりのあるデザインが目



内藤 希  
不動産学部3年

を引く。

素朴な材料を使いながら、コンパクトでかわいさを感じのまとまりをもつ住宅をショートケーキハウスということがある。リゾート地のペンションで、日本の建物とは異なる非日常的なメルヘンを演出することをねらってアーリーアメリカン様式が採用され、次第に住宅に拡大していったといわれている。色彩にも特徴が

## ショートケーキハウス

# 街が楽しくなるデザイン

あり、外壁は白やパステルカラーが多く用いられる。色が自由になる塗り壁が多いことが背景にある。

写真の住宅の特徴はまず、空を突きよつ以上に伸びる形だ。必ずしも広いとはいえない敷地に3階建ての木造住宅を建築するため、当然の結果ともいえるが、壁面から庇が出ないようにした急勾配の屋根にするなど、意識的な形を感じる。

次に壁の角に張られた石状のタイ

ルだ。縦に細長い形は不安定な印象につながる可能性があるが、角に硬さや強さをイメージさせる石を模倣したタイルを張ることで、見た感じを力強くしている。

さらに玄関扉の上のアーチ状の石状のタイル貼りも垂直方向への意識を強める。玄関より前に出た部分では石状のタイル張りの面積を広くする、外壁の色を



縦に伸びるデザインなどで「かわいらしさ」のある3階建て住宅

変えることで、後ろの部分と独立した感じにしている。平面計画の面では、この部分が突出していることは苦肉の策とも思えるが、立面のつくり方でプラスに変えている。

一方で気になる点は優しい感じの砂壁は魅力がある半面、汚れやすい。適切な維持管理で魅力を保ってほしい。また、1階の開口部のシャッターの形と光沢が全体のまとまりを弱めている印象がある。

【教員のコメント】  
西海岸でいち早く開発されたサンフランシスコは、妻側を見せて立ち並ぶピクトリア様式の建築が美しい。今はもう建築できないディテールの饒舌さが評価され、モダンズム建築より高く取引される。デザイン、管理、稀少性が価値の源泉である。

アーリーアメリカンスタイルは懐かしい雰囲気とシンパルさがある。独特の雰囲気の魅力だ。ショートケーキハウスが住宅様式主流になるとも思えないが、デザインが整い、まとまり感のある住宅が増えることで街が楽しくなる。